

教員養成における教育の質の向上に係る取組（幼稚園 1 種課程）

(1) 少人数教育によるこまやかな指導

本学幼稚園教諭の教職課程においては、一学年 50 名という少人数教育であるため、一人ひとりの適性に合わせたこまやかな指導が可能となっている。「教育実習指導」では、個々の学生についての把握と、個々に応じた適切な支援、指導がなされており、成果をあげている。専門科目教育においても、少人数教育を生かし、学生が主体的・協同的に学ぶ課題解決型授業を積極的に取り入れ、学びの成果発表の場も多く設けている。現代社会が要請する「自ら課題を発見し、他者と協働してその解決に取り組み、新たな価値を創造する力」を育成する教育者になるためには、課題解決型授業に参加することが必須となる。また、発表の場を設定することにより、各自の学びが共有され、客観的に振り返り、新たな課題の設定という学びの深化につながるサイクルを生み出している。実習指導の中でも、全学年が参加する教育実習報告会を設定し、自分の保育実践を客観的に振り返り、よりよい実践を追求できる自ら考える保育者として必要な力を育成している。また、傍聴する下級生にとっても、学びの見通しを得るよい機会となっている。

(2) 正課外活動の充実

正課外活動として、保育プログラムを設定している。保育プログラムは、1 年次の保育基礎プログラムと、2 年生以降の学生を主たる対象とする保育フェアからなる。

保育基礎プログラムとは、学生が主体となって、夏祭り、クリスマス会等の行事を企画、運営する活動であり、行事の企画、運営などを通じ保育構想力、実践力を高めることが、このプログラムの主たる目的となっている。

保育フェアは、年度末に設定されており、近隣の子どもたちを招き行われている。観劇、製作、親子で行うクッキングなどの学生が考案した保育プログラムが用意されており、学生たちはその中で学びの成果を披露している。これらの活動は、子どもの発達特性に応じた保育実践力の育成や子ども理解の深化にもつながっている。また活動を通して、協働する力やコミュニケーション力といった保育現場で必要とされる力を育成している。保育フェアで実演する上級生の姿は、下級生にとって、大学で自分たちがこれから身につけるべき力を理解し、学習への動機づけを高める等、初年次教育としての役割も担っている。